



CONTENTS

球根の歴史シリーズ(2) 1960年 第一回花の祭典フロリアード

フロリアード2012 今回のフロリアードは、すべてが変わります!!!

フロリアード2012 日本の政府出展について

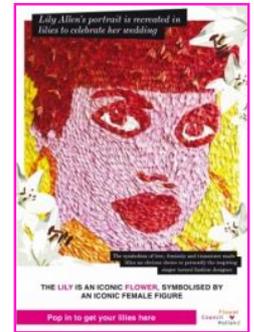
フロリアード2012 球根花の屋内展示カレンダー

フラワーリーム2011 「ジャパン・リリー・ハウス」でお待ちしています

今年の「Ms. Lily賞」のテーマリリーは、「ニンフ」に

セレブ・ニュース リリー・アレンさんの結婚を祝福する巨大な肖像画

「オランダ滞在記」・・・株式会社中村農園 中村光輝さんのオランダ研修レポート



リリー・アレンさんのポ
ートレート画像ダウン
ロードは、記事参照。

CONTENTS

球根の歴史シリーズ(2) 1960年 第一回花の祭典フロリアード

世界に名高いオランダの球根。その歴史も長く、興味深いテーマも多い。今回はオランダの球根歴史のなかから、1960年に開催された第一回花の祭典フロリアード開催の足取りを振り返ります。

1960年、第一回フロリアードのロゴマーク

10年に一回の開催という、花の国オランダのメインイベントでもあるフロリアード。その人気は国内国外を問わず高い。そのルーツは半世紀以上もさかのぼる1950年。当時の球根協会(AVB)会長のフェアハー氏は隣国ベルギー ゲント市の園芸ショー フロラリエンを視察していました。このショーは1808年の初回以来、5年おきに開催されていたもので、1950年のショーは戦後初めての開催ということで注目を集めていました。オランダからも展示出展が行われています。

フェアハー氏はゲント市のレストランで、園芸の国オランダをより世界にプロモートするため、より業界レベルを高めるために、自国でもこのようなショーが必要ではないか、と考えたところからフロリアードのもとになるアイデアが閃いたといいます。当時オランダですでにキューケンホフ公園のショーがありましたが、ターゲットとなる客層はまた別に設定することにしました。また当時、球根協会主催のショーとして1953年にフローラというものもありましたが、規模的にもっと壮大なものにと、最低でも40ヘクタールの敷地、建物の規模だけでも10,000~15,000平米と、それ以上のものを構想したのです。

1954年になり、開催予定地候補としてロッテルダムが浮上。1956年につくられた同地にあるその名も「パーク」という28ヘクタールの敷地に屋内ホール16,000平米を備えたロケーションに白羽の矢が立てられます。ここに1960年の国際園芸ショー開催が決定しました。この1960年という年は、オランダ王立球根協会(KAVB)設立100年記念、オランダ チューリップの歴史400年記念にもあたり、園芸輸出主要国としてオランダにもこのような大イベントが必要だという認識のもと、節目の年での開催ということになったのです。

さて、もうひとつのオランダを代表する球根イベントである「キューケンホフ公園」。フロリアード開催にあたって、こちらとの兼ね合いも忘れてはならない問題でした。前述のフェアハー氏は当時のキューケンホフ会長であるファンワーフェレン氏と会談をもち、キューケンホフ公園に近いアムステルダムでの開催はしないことなどの条件のもと、一応の協力路線にこぎ着くことができました。



このようにして、ようやくのことで1960年3月25日、当時プリンセスであったオランダ王室のベアトリクス王女がフロリアードを開幕。その妹であるイレーネ王女がキューケンホフ公園ショーを3月30日に開幕しました。フロリアードは9月末までの半年開催、キューケンホフのほうは3ヶ月の開催期間でした。初めてのフロリアードは、300万人の入場者、キューケンホフのほうもその前年をやや下回ったものの51万人という入場者となり、ともに盛況のうちに会を終えることができました。
(Bloembollen Visie 2009年12月3日記事からの抜粋要約)

フロリアード 2012 ニュース 今回のフロリアードは、すべてが変わります!!!



いよいよ来年に迫った花の祭典フロリアード 2012。開催地も従来の首都圏近郊や大都市と違って、南部リンブルフ州のフェンローということもあり、今までと大きく違った形になりそうだ。開催代表者である ロバート バウテン氏も「入場者は今までにない センセーショナルな感覚を体験できるでしょう。」とコメントしている。

シアター感覚

従来のフロリアード入場者は、50歳以上が大半というのが一般的であったが、2012年はいかに他の年齢層を呼び寄せるかということが大きな課題となっている。首都圏から離れたリンブルフ州での開催ということからも、子供連れのファミリー層の行楽パターンも狙いに入る。「オランダ最大のシアター」と呼べるような、単に花を鑑賞にくるだけでなく、体験型のイベントを目指すという。そのためにも、5つのメインテーマ： リラックス&ヒーリング、グリーンエネルギー、教育と開発、環境とワールド ショー ステージ が作られ、入場者にも明確にわかりやすいようになる。

リサイクル型 ヴィラ フローラ

フェンローでの新フロリアードの特徴の一つに、「環境保全型、リサイクル重視」があげられる。半年のフロリアード開催終了後には、グリーンパーク フェンローとして使用されることになっている。前回2002年の開催跡地はまだいわゆる「空き地」として残っている点と大きく異なる。

フロリアード開催中は環境保全型の最新温室施設 ヴィラ フローラとして活用され、終了後はビジネスオフィスセンターとして活用される予定である。また建設資材などにも、リサイクル アスファルトや、廃材利用のベンチなどが意識して使われているだけでなく、敷地内で使用されるケーブルカーは、終了後スイスへ売却されることが決まっている。

ファイナンス面

大型イベントにつきもののファイナンス面での難点も、この2012年のフロリアードはひと味違ったものになるという。主催者側は史上初の黒字フロリアードを目指すと言っている。開催にかかるコストは約8000万ユーロということだが、これをまかなうための資金は入場者からの収入がメインになる。約200万人の入場者が見込まれており、入場料、駐車料、パーク内でのその他の出費が主である。入場者の80万人はオランダ人、80万人は隣国ドイツ人、その他の40万人は他国からという予測となっている。

フロリアード 2012、IBC の展示館イメージ



ファイナンス面だけでなく、オランダの園芸セクターのプロモーションはもちろんのこと、地域活性剤としてフェンロー市のプロモーションにも利点をもたらすものとして期待がかけられている。海外からの注目度、国内外からの入場者を集めるこのビッグイベントをよいきっかけにしたいところだ。

現時点で出展国数は32カ国。敷地面積のうち1000平米を占めるワールドショーステージも国際色豊かなものになるということで、中でもインドネシア館が、園芸、ネイチャー、カルチャーを併せ持ったものになると今から評判である。

最後にまとめとして、数字で見るフロリアード

国際的な園芸の祭典であるフロリアードの記念すべき第一回めは1960年にロッテルダムで開催。その後1972年、1982年に首都アムステルダム。

1992年にデンハーグ近郊のズーテルメア。

2002年にはアムステルダムとハーレムの近郊であるハーレムマーメアで開催。

フロリアード2012年の概要

- 2012年4月5日から10月7日までの開催
- 開催敷地66ヘクタール、
そのうち40ヘクタールが出展施設
- 7000平米 屋内パビリオン
- 最低でも200万人の入場者予想
- 祝祭日などのピーク時の1日の入場者予想35000人
- 100を超すパビリオン、ガーデンなどの出展者（国内から90、海外から25）
- シーズンごとに移り変わる花で常時鑑賞
- ブランツ見本市、展示会などもあわせて開催



(ブルームクランツ 2011年3月29日号から抜粋)

10年の月日を経て、開催を来年に控えた開催地では、約1年前から多年性の球根を植え始めています(右上画像)。デザインは、このニュースでもおなじみの、ジャクリーン ファン デル クルトさんです。どのような姿になるのか今から楽しみです。

フロリアード2012 日本の政府出展について 農林水産省生産局生産流通振興課花き産業振興室から

フロリアードは、オランダで10年に一度開催される世界最大規模の園芸博覧会で、我が国は1992年と2002年に出席し、我が国の園芸文化の普及や欧州向け輸出の増大など一定の成果を上げてきました。

次回フロリアードは2012年4月から約半年間の会期で開催されますが、我が国政府は今回も政府公式参加を決定し、農林水産省が屋内展示を行うこととしています。現在農林水産省では屋内展示にあたっての出展基本方針を検討しており、6月末を目途にこれを策定します(5月31日と6月20日に関係者等から構成される検討会が開催され、活発な議論が行われたところです)。この基本方針では、展示内容の方向付けを行うほか、この機会を利用した商業活動、品種コンテストへの参加、園芸業界の人材育成なども検討していますので、皆様には是非ともご関心を持っていただきたいと思います。

この基本方針を承けて、今後、農林水産省は出展の具体的な内容を定める出展基本計画を策定しますが、これを皆様にお示しするまでには今暫くの時間がかかるものと思われます。この間の進捗状況は、上記検討会の結果を含めすべて同省の花き振興コーナーホームページ(<http://www.maff.go.jp/j/seisan/kaki/flower/>)に公開いたしますので、どうかこのページをご覧ください。なお、フロリアード2012にご関心のある方は、いつでもお気軽に当室までお問い合わせ下さい。

本件問い合わせ先：農林水産省生産局生産流通振興課花き産業振興室

担当：山本、粥川

電話：03-3502-8111(内線)4828

フロリアード2012 球根花の屋内展示カレンダー



1: EXPERIENCE

WEEK	展示期間	テーマとなる花
WEEK14	4月 2日から 8日	球根花 枝もの
WEEK15	4月 9日から15日	球根花 枝もの
WEEK16	4月16日から22日	春咲の花
WEEK17	4月23日から29日	シャクヤク 春咲きの花 春咲き球茎球根
WEEK18	4月30日から5月6日	春咲きの鉢物
WEEK19	5月 7日から13日	アイリス 春咲きの鉢物
WEEK20	5月14日から20日	春咲きの切花
WEEK21	5月21日から27日	春咲きの切花
WEEK27	7月 2日から 8日	夏咲球根
WEEK28	7月 9日から15日	カラー 夏咲球根
WEEK29	7月16日から22日	カラー
WEEK31	7月30日から8月5日	ユリ グラジオラス
WEEK32	8月 6日から12日	デルフィニウム アザミ類 草ものとヒマワリ
WEEK36	9月 3日から 9日	ダリア
WEEK37	9月10日から16日	ネリネ ユーチャリス

今年の「Ms. Lily 賞」のテーマリリーは、「ニンフ」に



今年の「Ms. Lily 賞」のテーマリリーは、「ニンフ」に決定しました。ユリの魅力は、花の豪華さや気品、色のバリエーションのほかに、豊かな香りを抜きには語れません。香りは、感情に働きかけ、心を癒し、安らかな気分になったり、気持ちを集中させ高めたりしてくれる様々な効果が知られています。ユリの香りも数多くの香水のテーマとして取り上げられています。この妖精を意味する「ニンフ」というユリは、フリージアに似たさわやかな香りを持つオリエンタルリリーです。さて、7月2日土曜日、フラワーDream初日に発表される第10回目の記念すべき「Ms. Lily 賞」は誰の手に?! どうぞ、お楽しみに!

<http://www.flowerdream-tokyo.net/mslily/index.html>

フラワーDream 2011 「ジャパン・リリー・ハウス」でお待ちしています

「フラワーDream 2011」が7月2日、3日に開催されます。IBCは、今年もこのイベントを後援しJFTA(社)日本花き球根輸出入協会と共同でブース出展いたします。今年の展示テーマは「ジャパン・リリー・ハウス JAPAN LILY HOUSE」。

大きく三つのゾーンに分けて鉢物・切り花それぞれに開花した状態のユリを色ごとに見やすく展示します。また新しい品種や変わった品種もその店頭での使い方も含めてご紹介するコーナーを用意します。この特別なコーナーは、09年ジャパンカップ優勝の平井昭臣&カトリン夫妻が担当するのも見どころです。また、前号でもお知らせした球根プロモーション用の素敵なカードをご用意しました。来場のみなさんにお配りします。ぜひ、「ジャパン・リリー・ハウス」へお越しください。7月2日土曜日に発表される「ミズリリー賞授賞式」もお楽しみに。

セレブ・ニュース リリー・アレンさんの結婚を祝福する巨大な肖像画

2011年6月11日(土)にイギリス・グロスターシア州クランハムの聖ジェームズ・グレート・チャーチで、長年のフィアンセである画家のサム・クーパーと結婚式を挙げたリリー・アレンさん。その名前にちなんだ花の肖像画のニュースです。

6月11日、イギリスの歌姫 リリー・アレンさんがサム・クーパー氏と結婚式を挙げ、本物のリリー(ユリの花)でつくられた肖像画で祝福されました。

オランダ花卉協会から提供されたこの写真は、フローリストが、この巨大なアート作品の最後の仕上げをするところ。この作品は、リリー・アレンさんが髪をアップにして大きなフープ・イヤリングをしている姿を描いています。

この作品は、アンディ・ウォーホルの1960年代の有名な作品であるマリリン・モンローのシルクスクリーン版画からイメージされています。リリー・アレンの26歳の頃の肖像画をもとにして、赤、黄色、ピンク、オレンジ各色あわせて1800本ものアジアティック・リリーを使って製作されました。この花の肖像画は、6人のプロのスタッフが9時間かけて制作され、現在、ロンドンにあるフローリスト、マックイーンのショーウィンドウに飾られています。

結婚式の花でこのような提案をすることもひとつの方法かもしれませんね。



画像 DL = http://www.lilypromotion.co.uk/Template/Lily_UK/BinaryResource/Assets/Documents/Lilly-Allen-in-Lilies.jpg

「オランダ滞在記」・・・株式会社中村農園 中村光輝さんのオランダ研修レポート

株式会社中村農園の中村光輝さんのオランダレポートをお届けします。なかなか知る事のできない球根産地の収穫期の様子を体験した貴重なレポートです。

初めに

私は会社では品種の情報発信や栽培等、主に技術部門の仕事に従事しています。それ故、春から夏にかけてオランダに出張し、生育状況や品種、品質の調査を行なったことはあり、その重要性は認識しています。ところが先ごろ、初めて収穫期の駐在業務を命じられ、2010年11月15日から2011年1月21日までの2か月余り、これまで経験のなかった視点から、オランダの球根産業を学ぶ機会を与えられました。

寒いオランダ！

私がオランダに渡った11月中旬は日差しが弱いものの、風はやさしく、心地よい寒さの晩秋でした。

出発前、先輩から「ヨーロッパの冬の寒さを侮ってはいけない！」と度々聞かされていた私は、重くてかさばる防寒着やブーツを持ってきたことを後悔していました。この時点での私は後に西ヨーロッパを記録的大寒波が襲うとは知る由もなかったのです。

冬の到来はまだまだ先の事と思っていた滞在第1週目とは異なり、第2週目は日毎に気温が下がって来ました。当初13あった最高気温は6、1となりわずか数日の間に真冬のオランダへと一変しました。そして、11月末いよいよ「130年に1度の大寒波!？」が襲来。私は日本の中でも温暖な気候の高知県で育った為、雪国への憧れがありました。しかし、朝出かける時の気温が-9、「最高気温も氷点下!？」の生活は想像を超えるもので、無邪気に騒いだのも初雪が降った一日だけでした。この日以降、日の出前の真っ暗な駐車場でフロントガラスに激しく凍結した氷を削り取ることが毎朝の日課となりました。私は赤くはれた自分の手を見ながら、日本で言われた言葉の意味をしみじみと理解したのでした。

私はオランダ滞在中、ゆり球根の生産会社3社と輸出会社3社で研修をさせていただきました。この時期はゆりの球根産業にと

って1年で一番忙しい時にあたり、各社早朝の6時から夜の9時や12時まで稼働していました。品質と同様にスピードと効率で最大限求められるこの期間、時間を忘れるほど忙しく、彼らの集中力とバイタリティーには脱帽でした。それぞれの会社で収穫、選別、消毒、パッキング等々独自の考え方や違いがあることが良く分かりました。これらの特徴を正しく把握し、より良い状態で国内の切り花生産者に届けることも私達輸入業者の重要な役割であるということを理解できました。各社の広い倉庫は室内でもとても寒く、早朝から夜遅くまで働く疲れとともに身体が芯まで冷えてしまいます。このような生活を送る私には一つの楽しみがありました。

温かいスープ！

それは、夕食時の「熱々のスープ」です。オランダのスープは日本に比べて非常に熱く、当初、私は熱すぎて飲めないスープをもどかしく感じていました。しかし、慣れるに従いこの熱々のスープは私の身体を内側から温めてくれ、疲れを癒し、明日も頑張ろうという気にさせるもので、まさに至福の食べ物となりました。私は滞在中5種類のスープを味わいました。「エルテンスープ」はえんどう豆のスープで、豚肉やベーコン、野菜などと煮込んだ代表的な家庭料理、毎日食べても飽きることのない深い味わいでした。また、「トマトスープ」や「野菜スープ」、「チキンスープ」や「マスタードスープ」が日替わりで私の身体と心をほぐしてくれ、その為か体験したことのない極寒生活にもかかわらず、風邪を引くこともなく毎日元気に暮らすことができました。オランダ最後の日の「エルテンスープ」の味は一生忘れることがないでしょう。



異なる文化！

この長期にわたる海外研修は貴重なデータや知識とともに多くの印象的な体験にあふれ、すばらしい時間となりました。オランダには大小の町があり、それぞれに必ず教会があります。古いものは数百年前に建造されたものが今でも使われており、毎週日曜日には人々が集まりミサを行います。クリスマスには家族や親戚が集まり、夜の教会に行き、厳かな雰囲気の中お祈りを捧げ、静かに一夜を過ごします。12月5日はセント・ニコラスデーと言われる子供達が翌年の目標を神に誓う日で、誓いと交換にプレゼントが与えられ、歌を歌い、踊る一日です。オランダの年末年始は朝から驚くほどの盛り上がりで、各家庭から花火が上がリ、家族や友人とともに新年を迎えます。私にとって家族から離れ初めて外国で一人過す年越しでしたが、こうした異文化や日本とは異なる習慣にふれることができ、貴重な体験となりました。また、改めて自分自身の家族や友人、周りの人々の大切さを再確認する意義深い機会となりました。



ダンク ユ ウェル！

私が出会ったオランダの人達は私が海外生活で困った時、親身になって力を貸してくれ、誰もが心優しく温かさを持って接してくれました。出発前、少し不安を抱え、遠くに感じていたオランダはこうした人々のお陰で、大好きな最も身近な(外)国となりました。今、私は日本に帰り、当面の目標である「ゆりフェスタ」の成功に向けて汗を流しています(注：6月1日～5日に開催されました)。オランダで知りあった多くの方々も来て下さることが、大きな励みになっており、今後も仕事を通じて更に友情を深め、日本とオランダの友好的な関係に少しでも貢献できればと願っています。



最後になりましたが、今回の研修に際し、多大なご支援を賜りました各輸出会社、生産会社の皆様方に心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

「花の力プロジェクト」<http://hananochikara.org/>をご存知ですか？ 花に関わる有志が声を掛け合って立ち上げた震災復興支援の組織です。7月16日に『花の力 for Japan』という花のチャリティ・イベントを企画しています。日本で活躍する5人の海外デザイナーによるデモなどなかなか見ることの出来ない機会です。IBCブースでも活躍する平井カトリンさんも登場するこのイベントに、ぜひご協力、支援をお願いします。「花の力」で心癒し、声をかけあい、一緒に少しずつ歩いていけたらいいですね！